

総長 モンゴル出張報告

昨年に引き続き、10月21日（日）から24日（水）にモンゴルに出張しました。今回の出張の主な目的は、アジアサテライトキャンパスのウランバートルでの入学式に出席することとモンゴルの要人と面会することです。皆さんに今回のモンゴル出張についてお伝えします。

1. モンゴル国立大学トゥムルバートル学長との会談

モンゴル国立大学は国内トップの大学で、トゥムルバートル学長の前職が教育省副大臣であることから、モンゴル政府がこの大学を特に重要視していることが伺えます。トゥムルバートル学長から、モンゴル国立大学はモンゴル政府の方針により、今後、研究をより重視した大学に変わる予定だが、どのように大学を研究にシフトさせるべきかという質問があり、名大の経験を踏まえて意見交換しました。



2. モンゴル国立教育大学マンダハ学長との会談

昨年、学長に就任されたマンダハ学長とは、今回、就任後初めてお目にかかりました。マンダハ学長とは、名大が支援している子ども発達共同支援センターの活動や教員養成学部における授業研究について話し合いました。



3. アジアサテライトキャンパス入学式への出席

本学は、アジア各国政府の中枢人材育成の支援のため、モンゴルをはじめ、ベトナム、カンボジア、ウズベキスタン等にアジアサテライトキャンパスを置いています。モンゴルでは、今年、教育や環境などの分野に6名が入学しました。入学式では、モンゴルと名大との交流に触れながら歓迎のあいさつをしました。



4. 全学同窓会モンゴル支部同窓会懇談会への参加

モンゴルでは名大の卒業生が様々な分野で活躍しており、今回、ウランバートルのホテルのボードルームで開催された同窓会懇談会には私も出席しました。30名以上の参加者があり、現在の仕事や、名大への留学当時の様子等について話し合いました。



5. 新モンゴル学園訪問

ウランバートルにある新モンゴル学園では、日本式の教育を取り入れて生徒を指導しており、名大の附属高校とも交流があります。同学園を訪問し、高校生との交流会に参加しました。



6. モンゴル科学技術大学オチルバト学長との会談

本学はモンゴル科学技術大学鉱山学部と交流があります。オチルバト学長とは、同分野での研究実績や、10月に本学がモンゴル科学技術大学で開催したセミナーなどについて懇談しました。



7. 自然環境観光省ツェレンバト大臣との会談

自然環境観光省では、ツェレンバト大臣に面会しました。同省の職員は、一昨年、昨年と続けてアジアサテライトキャンパスに入学しています。ツェレンバト大臣からは、工業化と環境保護の問題、新しい都市を作る計画などについて紹介があり、モンゴル国立大学と環境分野で共同研究を行っていることやモンゴルの自然の美しさなどについても話が及びました。



8. 保健省サランゲレル大臣との会談

本学は、モンゴルで医療行政に携わる人材を文科省のヤングリーダーズプログラム（YLP）を通じて受け入れており、卒業生は保健省で活躍しています。今回は、昨年、保健省大臣に就任されたサランゲレル大臣と面会しました。この会合には、YLP の修了者が9名参加しており、大臣から、本学での受入れに対する感謝の言葉があり、私からは医療政策、予防行政の重要性について話しました。



9. モンゴル医科大学ツオルモン学長との会談

本学は、モンゴル医科大学から多くの学生を受け入れていることもあり、今回、ツオルモン学長と面会しました。来年竣工予定のモンゴル医科大学附属病院の運営や衛生管理、感染対策などについて話し合い、その後、建設中の附属病院を見学しました。



その後、在モンゴル日本国大使館にて、高岡正人特命全権大使やツォグゾルマー教育・文化・科学・スポーツ大臣らと懇談しました。

10. 所感

私はモンゴルを毎年訪れており、いずれもごく短期間ではありますが、そのたびに政府要人や多くの大学関係者にお会いする機会を得ています。皆さんとの面談の際には、同国との友好親善に本学が人材育成や学術交流の面において、多大な貢献ができているということ、そして同国との交流を通じて、本学の研究のフィールドが広がるとともに多くの有能な人材を得ていること等を毎回強く感じています。今回の訪問の主な目的は、2018年度アジアサテライトキャンパス学院モンゴル校の入学式出席でしたが、実質2日間の滞在中、モンゴルを代表する4大学（モンゴル国立大学、モンゴル国立教育大学、モンゴル科学技術大学、モンゴル医科大学）、モンゴルでもトップクラスの中高一貫校である新モンゴル学園、関係省庁（教育・文化・科学・スポーツ省、自然環境観光省、保健省）、さらには、在モンゴル日本国大使館等の関係者とお会いし、意見交換ができたことは大きな意義がありました。その中で、特に印象に残った点を皆さんにお伝えしたいと思います。

まず、アジアサテライトキャンパス学院モンゴル校に、今年は6名の入学者があったことです。専門分野も医学、法学、環境学、教育学と多岐にわたり、アジア6か所に展開しているサテライトキャンパスの中でも、最も活発に活動しているという印象を受けました。彼らが、将来、国を担う中心人物として大きな期待を背負っていることが強く感じられ、本学の責任もそれだけ大きいものと改めて認識した次第です。これまで本学は、法学研究科の日本法教育研究センター（CALE）設置、医学部のYLP、博物館を中心としたフィールドリサーチセンター（国のプロジェクトとしては2018年度で終了）設置、環境学研究科のモンゴル国立大学レジリエンス共同研究センターにおける人材育成と国土計画にかかる共同研究、教育発達科学研究科の「こども発達共同支援センター」設置等、モンゴルと多くの連携と共同事業を行ってきました。アジアサテライトキャンパス学院モンゴル校に対する高評価は、これらの着実な活動が実ったものと考えられ、関係者の皆様には改めて感謝を述べたいと思います。今回、保健省を訪れ、サランゲレル大臣にお会いしたときに、YLP第1期生であるアルタントゥーヤさんをはじめ、YLP卒業生が同省幹部として迎えてくださったことに、非常に感銘を受けました。これから、彼女たちがモンゴルの医療・保健行政を、日本と連携しながら発展させてゆくことを期待しています。

第二に、昨年、新たに教育・文化・科学・スポーツ大臣に就任されたツォグゾルマー大臣は、極めて強い教育改革の意思をお持ちで、大臣室訪問時並びに日本大使館公邸での懇談の際に、情熱的にモンゴルにおける高等教育改革と本学への期待を述べていらっしゃるというのが印象的でした。改革の骨子は、モンゴルにおける高等教育の質（特に大学教員の資格）を適切に管理することで、増え過ぎた大学数を適正数に戻すとともに、大学院教育の充実も図りたいということでした。実際に、モンゴル国立大学では、大学院改革（日本でいえば、大学院重点化）を既に進めており、国際的に認知される研究大学に成長することを目指しているとおっしゃっていました。高岡特命全権大使の「モンゴルの教育の充実こそが同国を発展させる礎となるので、本学に大いに感謝しており、これからも支援に期待したい」との言葉から、学（大学）と官（国）が連携して両国の関係をさらに緊密にすべきであると感じた次第です。

第三に、今回、初めて訪問した新モンゴル学園です。新モンゴル学園は、幼児教育から小・中・高一貫教育、さらには工科大学まで、幅広く教育を担う2000年に設立された私立の学園です。理事長のガルバドラツハ氏は極めて情熱的な方で、日本式教育の推進者でもあります。モンゴル中からトップクラスの成績を収める生徒が集まり、モンゴルにとどまらず世界の大学に進学することを目指しています。礼儀を重んじ、かつ将来の大志を抱かせる教育を通じて、卒業生の中から多くの優秀な人材が育ちつつあるようです。本学教育学部附属高校との交流もあり、理事長や生徒との対話から、本学が彼らにとって憧れの大学であることを認識でき、大変嬉しく思いました。理事長は、将来、同学園の卒業生から大統領、ノーベル賞受賞者、国連事務総長など、モンゴルはもとより世界をけん引する人材が出ることを夢見て、校庭に表彰台を設置しておられました。理事長の夢が現実になることを切に望む次第です。そして今回のモンゴル訪問を通じて、本学は、世界中から優秀な学生をリクルートすべく一層の努力をする必要があるということ、そのためにはこれまで築いてきた基盤を最大限有効活用することが必要であると強く感じました。

最後に、私のモンゴル訪問の際には、毎回全学同窓会モンゴル支部と本学の共催で同窓会懇談会が開かれます。今回も大変多くの同窓生が集まり、出席者にとぎやかに談笑しましたが、それぞれが将来の夢や目標をしっかりと持ち、モンゴルを支えていることを改めて確認しました。今後もこのような人材が両国の架け橋となって活躍することを期待して、名残を惜しみつつ会場をあとにしました。

本学は、欧米はもちろん、アジアとともに発展するための道をしっかりと歩んでいく必要がある、と感じた出張でした。